

知識集約型社会を支える人材育成事業
令和3年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学等名	麻布大学	整理番号	6
メニュー	メニューⅡ 出る杭を引き出す教育プログラム		
事業計画名	動物共生科学ジェネラリスト育成プログラム		

1. 進捗状況の概要

- ・ 本事業計画は、実行初期段階にあるが、動物共生科学ジェネラリスト育成のメインプログラムとして、「ジェネプロ研究プログラム」がコロナ禍においても対面で実施され、16のプロジェクトがあり、令和2年度には37名の学生が参加している。また、プログラム必須科目等の配備は順調に進んでいる。
- ・ 参加学生との意見交換においては、出席した全ての学生が、「ジェネプロ研究プログラム」が有意義であり、時間的に忙しいものの、やりがいがあると感じている様子が確認できた。また、教員や先輩と先端研究に取り組むことで、学修意欲の喚起や、自分のキャリア形成を考えるよい機会となっている様子も確認できた。
- ・ LMSである「AzaMoodle」の導入は順調であり、サイエンスリテラシー、コンピテンシーなどの学修効果測定に有効に利用されている。一方、Learning Analyticsは、準備段階であり、今後の本格的運用が見込まれる。
- ・ 就職支援体制として、民間企業・自治体からの意見を基に取組の検討をしている。今後は、これら外部組織との連携が見込まれる。
- ・ 本事業計画の柱である早期人材育成においては、高大接続が重要であるが、高校生の募集に関しては有効な手段を模索する段階に留まっている。
- ・ 本事業計画推進に関しては、全学的な教学マネジメント体制の確立までは至っておらず、学長を中心とした運営体制の構築途上にある。

2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)

- ・ 「ジェネプロ研究プログラム」に参加している学生は多忙である様子が見受けられ、教育の質保証の観点から学修の進捗状況をよく見守るとともに、履修スケジュールの妥当性は定期的に関係者間でよく議論されたい。また、今後、本事業計画を拡大する際の、参加学生及び指導教員への支援体制の拡充を至急検討されたい。
- ・ 「ジェネプロ研究プログラム」について、研究室内だけの活動で終わらないように、本事業計画自体の広報活動の面からも、外部への発表の機会も検討されたい。
- ・ 高校生の募集にあたっては、本事業が高い競争率のもと獲得したものであり、日本の大学を先導するプログラムであることを積極的に広報していただきたい。一方、意見交換に参加した学生には、麻布大学のオープンキャンパスで「ジェネプロ研究プログラム」を知り進学したと述べた者もいたことから、広報の効果測定も実施する必要がある。また、夏季インターンシップのようなプログラムを実施し、興味のある高校生のリクルートも検討されたい。